

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671400053
法人名	社会福祉法人 東紅会
事業所名	グループホームヒワサ
所在地	徳島県海部郡美波町西河内字丹前99番地 (電話) 0884-77-3066

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 24 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤:6人、非常勤:2人、常勤換算:	7.58人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費:9,000円、その他:実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 28 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低 73 歳	最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ヒワサクリニック、日和佐病院、野口歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームヒワサは、協力医療機関と複数の福祉施設・事業所が建ち並ぶ敷地の一角にある。医療連携体制を整備し、緊急時における対応など医療との連携を図っている。職員は利用者一人ひとりの要望や力量を発揮できる場面づくりに取り組み、「生きがいプラン」を作成している。夕食前の晩酌など利用者一人ひとりの思いを具現化し、その人らしい生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は特にない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義やねらいについて話し合い、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、役場職員、地域密着型サービスの知見者、医師等が参加している。会議では外部評価結果を報告したり、より良いサービスに向けて話し合うなど、参加者から出された意見や要望等は事業所の取り組みに活かしている。会議内容は議事録に残し、全職員で共有している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態等については、家族の来訪時に説明している。遠方に住む家族には、電話や手紙などで定期的に報告している。また年に2回、「ホーム便り」を発行している。家族からの意見や要望等についてはミーティング時に話し合い、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は地域の祭りに参加したり、月に1回近くの神社の清掃活動に参加するなどしている。また、事業所主催のイベントには近所の人たちを招待するなどして交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、全職員で検討し、地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ内容となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に理念について話し合い、日々のサービス実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域の祭りに参加したり、月に1回近くの神社の清掃活動に参加している。また、事業所主催のイベントには近所の人たちを招待するなどして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいについて話し合い、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果については運営推進会議で報告し、より良いサービスに向けて話し合っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、役場職員、地域密着型サービスの知見者、医師等が参加している。会議では外部評価結果を報告したり、より良いサービスに向けて話し合うなど、参加者から出された意見や要望等は事業所の取り組みに活かしている。会議内容は議事録に残し、全職員で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実状や内容を町の担当者や地域包括支援センター職員に伝えている。町の担当者を事業所主催のイベントに招待するなど、関係を築きながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等については、家族の来訪時に説明している。遠方に住む家族には、電話や手紙などで定期的に報告している。また年に2回、「ホーム便り」を発行している。金銭管理状況については面会時に出納帳を確認してもらい、遠方の家族にはコピーを送付して確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等に関しては相談箱を設置し、気軽に出してもらえるよう配慮している。家族からの要望等についてはミーティング時に話し合い、運営に反映させるよう取り組み、記録にも残している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動は馴染みの関係を重視し、最小限にとどめている。職員の交代時には引き継ぎ期間を十分に設け、利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員が法人内外の研修に積極的に参加できるよう支援している。研修内容は、報告・発表したり、報告書を回覧して確認印・サインをするなど、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徳島県老人福祉施設協議会に加入し、同業者同士で見学したり、相互研修を行ったりして交流し、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅を訪問したり、家族と連携しながら場の雰囲気に徐々に馴染んでもらうなど、安心してサービスが利用できるよう柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を共に暮らす仲間として接し、家庭的な雰囲気の中で野菜の育て方を教えてもらうなど共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴やニーズを把握し、「やりがい」や「生きがい」を検討し、「生きがいプラン」を作成している。利用者一人ひとりの思いは、事務室の壁に掲げて全職員で共有し、日々の支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の検討会議にはできる限り多くの職員が参加し、それぞれの意見を述べている。介護計画は利用者の意見や家族の要望にそって具体的に作成されている。計画書には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月利用者のモニタリングを行い、期間に応じた見直しを行っている。また利用者の状態変化が生じた際などは、本人の希望や家族の意見を聞いて関係者間で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、重度化した場合や看取りの対応などを行っている。また家族の要望に応じ、病院への送迎や通院介助などを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じたかかりつけ医への受診を支援している。診療情報等はその都度、家族に説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化及び看取りに関する方針」を作成し、契約時に家族へ説明し、関係者間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については契約書や重要事項説明書に明文化し、マニュアルも作成している。またミーティングや研修会において利用者の尊厳と権利が守られるよう職員間で話し合い、日頃の介護に実践できるよう管理者が点検する等、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望にそった「個別予定表」、「生きがいプラン」を作成し、事務所の壁に掲示している。職員は利用者の楽しみごとの把握に努め、その人のペースに合わせたその人らしい生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者が育てた野菜をつかったり、食べやすいようにきざみ食やとろみ食にするなど工夫している。利用者は職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じて支援している。入浴を拒む利用者には対応する職員を変更したり、足浴を行うなど工夫して支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りや俳句など利用者の趣味や希望に応じた役割や楽しみごと、気晴らしを「生きがいプラン」に位置づけ、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブ、野菜畑の手入れなど、利用者一人ひとりの希望にそった日常的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。職員は利用者の行動パターンを把握して見守りを徹底し、安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。年2回、昼夜における避難訓練を消防署、地域の消防団の協力を得て実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は母体法人の管理栄養士と相談し、バランスや利用者の希望に配慮して作っている。食事・水分摂取量は毎回チェックし、記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には生け花や鉢植えを飾っている。リビングにはテレビが見やすいように机や椅子を配置し、カラオケなども楽しめるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や馴染みの品、家族の写真などを持ち込んだり、趣味である俳句の短冊、過去の業績の表彰状などを飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		